

<研究ノート>

## 旅行者はどこから来るのか (2) －筑波山の事例研究－

岩田 隆一\*

### Where do Tourists Come from? (II) A Case Study of the Tsukuba Mountain Area

IWATA Ryuichi\*

この研究ノートでは茨城県への旅行者がどこから来るのかを筑波山への定点観測を中心に調査した。その結果最も多い訪問者はつくば市とその周辺の人々であった。いわゆる生活圏の住民が最大の旅行者であることが確認できた。

#### 1. 停滞するご当地検定

2014年7月3日の日本経済新聞夕刊の記事「ご当地検定で明暗」によれば検定数は2009年の135から2013年には77に減少した。5年間で62が廃止されたことになる。ご当地検定は地域の活性化や観光振興のために商工会議所や観光協会が実施している。廃止の原因は受験者数の減少とそれに伴う公的資金のカットによる資金不足による。

2003年にスタートした「博多っ子検定」は2年後には募集を中止した。一時はホームページのサーバーがパンクするほどだったが、展開が不明確ということで行政や民間企業だけでなく市民からも見放されてし

まった。逆に今も人気を集めているの一つが「なまはげ伝道師検定」である。募集範囲を秋田県内に限定し、根強い人気を集め、県内しか宣伝していないが受験者の半数が県外だという。記事によれば「何を伝えたいのかが明確で、一過性ではない深みがあることが重要だ。何より自分たちで地元を良くしているという運営側と受験者の郷土愛が存続のポイントではないか」というブランド総合研究所の田中章雄社長のコメントを紹介している。最大の受験者数の京都・観光文化検定試験の受験者6000人（2013年度 第10回）の都道府県別申込者分類を見ると地元京都府が3293人で50%、2位が大阪府（793人）で12%、3位が東京都554人の8%であった。つまりご当地検定試験を支えているのは地元の人たちであり、観光促進を目的に地元外の人々の関心を引こうという目的ではご当地検定を維持することは困難であると思われる。

\* 筑波学院大学経営情報学部、Tsukuba Gakuin University

## 2. ヨーロッパ諸国の旅行事情

ヨーロッパ諸国の統計をまとめている eurostat の観光統計をまとめた2012年 Tourism Statistics によれば次のようなまとめを発表している<sup>1)</sup>。

1. EU 住民は自国内で休暇を過ごす傾向がある。
2. EU 域内には魅力的な観光地が多い。
3. 多数の観光旅行は短期で最大3泊である。
4. ビジネスを目的にした旅行は全体の13.3%である。
5. 半数以上の宿泊旅行は有料宿泊施設に宿泊している。
6. 国外旅行の主な交通手段は航空機である。
7. 社会状況は観光活動に与える影響は限定的である。

2012年に EU 国民は11億9600万の宿泊旅行を行った。主な旅行者はドイツ(2億4700万)、フランス(2億2500万)、英国(1億1600万)、スペイン(1億3560万)などが主な国である。この4か国で EU 全体宿泊旅行の64.3%を占めている。

しかし11億9600万の宿泊旅行のうち75%以上が国内宿泊旅行であることがデータから確認されている。また国外旅行が国内旅行より多い国は EU 加盟国のうちわずか4か国に過ぎず、それらの国は面積が小さい国々である。具体的にはルクセンブルク、ベルギー、マルタ(島国)とスロベニアである。

また11億9600万の宿泊旅行のうち51.1%は1泊から3泊の国内旅行であった。また4泊以上の宿泊旅行でも17.1%は国内旅行であった。その他の旅行(たとえばビジネス旅行)を含めれば76%は国内旅行である。

eurostat のデータからは我々が想像する「長期休暇で長い海外旅行を楽しんでいるヨーロッパの人々」というイメージとは異なる

旅行事情が数字で示されている。たとえば旅行期間の詳細を見てみると全体の57.9%は短期の旅行が占めている。全体の20.1%は1泊2日の旅行が占め、24.9%は2泊3日、3泊4日が12.9%と全体の57.9%を占めている。4-7泊は25.6%となっている。これにビジネス旅行(通常は短期旅行)を加えると93.1%となる。2週間以上の旅行は5.6%にしかならない。

表1 ヨーロッパ諸国の宿泊旅行比率(2012年 出典 eurostat)

泊数	比率 %
1泊2日	20.1%
2泊3日	24.9%
3泊4日	12.9%
4泊-7泊	25.6%

日本人の平均宿泊数は1.56泊である(2012年日本観光振興協会「観光と実態と志向(30回)」)

## 3. 利用交通機関

国土交通省観光庁の調査によれば国内旅行で最長交通機関(複数の交通機関を利用した場合に最も長い距離移動に利用した交通機関)調査回答638,349によると宿泊旅行と日帰り旅行に利用した交通機関(手段)の割合は下記の表のようになった。

表2 最長利用交通機関(旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究 2012年3月)

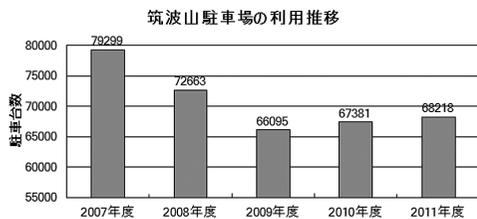
最長利用交通機関 (638,349)	宿泊旅行 (320,770) %	日帰り旅行 (317,579) %
飛行機	14	0.1
新幹線	19	10
在来線(除く新幹線)	10	17
自家用車+レンタカー	45	55
バス(観光バス、高速バス、路線バス)	11	15
その他	1	2

上表からも明らかのように日本の国内旅行の交通手段の主役は宿泊旅行でも日帰り旅行でも自家用車(及びレンタカー)が主役になっ

ているということである。つまり旅行者の行動は自家用車での旅行者の動きをみればおよそその見当がつくと思われる。

茨城県に限定すれば自家用車を利用した旅行者の比率は全国平均より高くなっている。「茨城の観光リクリエーション現況（平成25年観光客動態調査報告）」によれば平成25年には89%の旅行者が自家用車その他を利用している。また日本観光振興協会「観光の実態と志向（第30回）（平成24年3月）」によれば宿泊旅行での利用交通機関調査では自家用車（54.3%）、レンタカー（5.1%）の合計59.4%であった。各調査によって数値は異なるが自家用車が国内旅行の最大の交通手段であることは共通している。

**表3 筑波山の市営駐車場の利用状況（つくば市観光基本計画 平成24年6月p12より）**



#### 4. 茨城県への旅行者はどこから来るのか

つくば市観光基本計画によれば、「2007年度は、前年（2006年）につくばエクスプレスが開通し、数多くのメディアに筑波山が取り上げられたこともあり、利用台数が最も多くなっていますが、平成19年度（2007）以降は、やや減少したまま推移してきています。年間を通じては春の観梅期・新緑期、秋の紅葉期、筑波山神社参拝の正月の時期が多く、5年間を通して同じ傾向を示しています」と説明している。

本稿のテーマは旅行者数の増加や減少の理由の解明ではなく、旅行者がどこから来るの

かがテーマである。そこで筆者は筑波山への自動車道（土浦からの道路とつくば市からの二本がある）のうち筑波山神社へのアクセスが一番便利なつくば市から入る道路（片道1車線）の筑波山から平地に入る地点で帰り車のナンバープレートの登録地でこのドライバーの出発地点を定点観測した。

1回目は2014年7月21日（日）午後2時15分～3時15分の1時間 当日は最高気温が30度を超える真夏日であった。調査地点を通過した自家用車は合計240台。2回目は2014年9月15日（月）で敬老の日の祭日で調査時間は午後2時20分から3時20分の1時間である。調査地点は前回と同じ場所である。当日は最高気温が25度で秋晴れの旅行日和であった。調査地点を通過した自家用車は365台であった。ただし対向車などの通過や記録ミスなどで両日とも20台近くが調査できなかった。なお両日とも宅急便など明らかに商用車と思われるものなどはカウントしなかった。また両日とも観光バスが1台通過したがカウントはしなかった。調査結果は下記の表4-1、4-2のようになった。

**表4-1 自家用車の登録都道府県調査**

	7月21日（日） 240台 100%	9月15日（月/祭日） 365台 100%
茨城県	50	49
千葉県	23	17
埼玉県	12	13
東京都	6	10
栃木県	6	6
その他	3	5

筆者は筑波山にある二つの駐車場のうちつつじが丘駐車場に駐車している自家用車の登録番号も調べた。つつじヶ丘駐車場は筑波山山頂へのケーブルカー駅の横にあり、山頂に向かう訪問者しか駐車しないと思われるのでより旅行者調査に向いている可能性がある。調査結果は次の通りであった。調査日は7月21日（日）午後3時30分 駐車台数は82台で

あった。

表4-2 つつじヶ丘駐車場の登録車調査  
(2014年7月21日午後3時30分)

	つつじヶ丘駐車場 82台 100%
茨城県	38%
千葉県	26%
東京都	18%
埼玉県	7%
その他	5%

つつじヶ丘駐車場の調査でも茨城県が最多で2番目が千葉県という順番は変わらず、3位と4位は逆転しているが、上位4都道府県で全体の9割以上を占めていることは定点観察の結果と同じであった。

筆者は2014年9月27日(土)午前11時に茨城県立フラワーパークの駐車場に駐車している車の登録地も調査した。駐車している車(一部は調査中に入場してきた)は合計129台であった。フラワーパークには2013年度177,000人の入場があった。

合計4回の調査結果を表にまとめると下記の表5のようになった。

上記の調査から確認できることは筑波山に来る人は茨城県在住者が最多と思われる。また茨城県の近接県である千葉県、埼玉県及び東京都で全体の9割を占めている。茨城県内の旅行者の89%が自家用車(およびレンタカー)を利用していることから推察すれば筑波山への訪問者の半数は茨城県民であり、近接県の千葉県、埼玉県と東京都からの訪問者

で全体の9割を占めているとの仮説が成立する<sup>2)</sup>。

この仮説を確認するために前述の「茨城の観光レクリエーション現況(平成25年度観光客動態調査報告)茨城県商工労働部観光物産課」のデータで見してみる。調査報告は県内15か所にわたって行われたパラメータ調査に基づいている<sup>3)</sup>。筆者の調査した筑波山と茨城県立フラワーパークはこのパラメータ調査地点にもなっている。この調査報告の都道府県別の茨城県への入込調査結果は下記の表6のようになっている。

表6 居住地別観光客数及び構成比

居住地	入込客数(万人)	%
茨城県	2514	52.3
千葉県	543	11.3
東京都	451	9.4
埼玉県	432	9
合計	3940	82%

出典：茨城県の観光レクリエーション現況

表5と表6を比較してみるとほぼデータは一致する。筑波山とその周辺への訪問者は茨城県、千葉県、埼玉県と東京都からの旅行者が80~90%を占めている。では各県のどのあたりからきているのかを車の登録地で確認した。ここでは自家用車などの登録地から出発地をより詳細に見てみる。登録地別に台数と比率をまとめたのが表7である<sup>4)</sup>。

表5 自家用車調査

調査日 調査地点	2014年7月21日(日) 道路調査	2014年9月15日(月/祭日) 道路調査	2014年7月21日(日) つつじヶ丘駐車場	2014年9月27日(土) 茨城県立フラワーパーク
調査対象	通過車両 %	通過車両 %	駐車中の車 %	駐車中の車 %
茨城県	50	49	38	57
千葉県	23	17	26	20
埼玉県	12	13	7	10
東京都	6	10	18	4
栃木県	6	6	0	4
その他	3	5	5	

表7 自家用車登録地別割合

7/21	%	9/15	%	9/27	7/27	%
つくば	23	つくば	21	土浦	26	
土浦	22	土浦	20	水戸	18	
水戸	6	水戸	6	つくば	13	
春日部	6	春日部	5	春日部	7	
大宮	5	大宮	5	柏	5	

国土交通省 観光庁は観光客の定義を「余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々の諸活動」としている。しかし筑波山や茨城県フラワーパークを訪れる車は筑波山の所在地であるつくば市と近接する土浦ナンバーが4割以上を占めている。茨城県フラワーパークは石岡市内に位置しているが石岡市は土浦ナンバーになるのでやはり土浦と近接するつくばナンバーが4割以上である。つまり筑波山と茨城県フラワーパークに限定すれば訪問者は日常生活圏より少し拡大した程度の範囲となる。茨城県フラワーパークには草すべりの道具を持った孫たちを連れてきた老夫婦や車いすを押している家族など日常生活を少しだけ豊かに楽しくしようとする人々がいた。

## 5. まとめ

地元の観光地を最も多く訪れる旅行者は地元の人である。茨城県では日帰り旅行者でも宿泊者でも同じ茨城県内の旅行者が最大のグループを構成している。ご当地検定試験を支えているのは地元の人たちであり、観光促進を目的に地元外の人々の関心を引こうという目的ではご当地検定を維持することは困難であることは前述した通りである。レジャー先進国のヨーロッパ諸国でも51.1%は1～3泊の国内旅行が占めている。1～3泊では長距離の旅行は考えにくい。

宿泊旅行でも表8が示すとおり茨城県内の宿泊者の31%は茨城県内からの旅行者である。

表8 茨城県内の宿泊者数

延べ人数	県内からの宿泊者数	県外からの宿泊者数
1,637,000人	509,000	1,128,000
割合	31%	69%

出典：茨城の観光レクリエーション現況（平成25年観光客動態報告調査報告）

茨城県外からの宿泊者は何県から来ているのかは観光庁の宿泊統計でも茨城県の調査でも確認できないが、国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（2012年3月）」でデータ数は少ないが確認することができる。

表9 茨城県にはどこの都道府県からの宿泊者が多いのか（観光目的）

都道府県	回答人数
茨城県	10
埼玉県	10
東京都	10
栃木県	8
千葉県	5

出典：国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（2012年3月）」

やはり日帰り旅行者と同様近接県である埼玉、栃木、千葉県と東京都が日帰り旅行者と同様に上位を占めていることが確認できる。

日本最大の温泉地を抱える大分県への訪問者の出身県を大分県の調査によると平成24年の宿泊客統計によると、大分県内からの宿泊者は全体の20.2%で隣県の福岡県が26.9%なので両県で47.1%を占めている。最大の市場と思われる関東からは14.1%である。別府温泉や湯布院を抱える大分県ですら遠方からの旅行者は少数派である<sup>5)</sup>。

2020年の東京オリンピックを控え外国人旅行者を誘致しようとする地方自治体も多いが現在外国人訪問者が少ない地域が外国人旅行者数の増加によるメリットを享受する可能性は低いと思われる。本調査では旅行者が訪問する地域は旅行者がよく知っている地域なることが確認された。

調査対象20カ国の平均とドイツ、フランス、イギリスの観光データ

国名	総旅行数	国内旅行割合%	国外旅行割合%	総宿泊数	国内旅行宿泊数%	国外旅行宿泊数%	平均宿泊数	国内旅行宿泊数%	国外旅行宿泊数%
調査対象20カ国の平均	11億 9600万回	76%	24%	61億 6400万回	60.1%	39.9%	5.2泊	4.1	8.1
ドイツ	2億 4500万	66.6%	33.4%	12億 5400万	45.2%	54.8%	5.1	3.4	8.3
フランス	2億 2500万	89%	11%	12億 4000万	82.9%	17.1%	5.5	5.1	8.6
イギリス	1億 6100万	68.5%	31.5%	8億 8000万	38%	62%	5.5	3.0	10.8

注

1) eurostat の Tourism Statistics が調査した20ヶ

国は以下の通り：

チェコ共和国 ドイツ エストニア スペイン  
フランス イタリア ラトビア リトアニア  
オランダ オーストリア ポルトガル  
ルーマニア スロベニア スウェーデン  
英国 アイスランド ノルウェー スイス  
モンテネグロ トルコ

eurostat では各国の国民所得を比較するためにEU27か国の平均所得を100として各国の比較を行っている。EU 諸国以外ではアメリカと日本が参考数値として紹介されている。このリストによると下記の表のようになる。

EU27か国平均	100
ドイツ	125
フランス	106
イギリス	106
アメリカ	127
日本	106

2) 自家用車利用調査

調査機関	国土交通省 観光庁	社団法人 日本観光振興協会	茨城県
調査年	2010年	2010年	2014年
調査対象	日帰り+ 宿泊旅行	宿泊旅行	日帰り+ 宿泊旅行
自家用車利用率(レンタカー含む)	宿泊旅行： 45% 日帰り旅行： 55%	59.4%	89%

出典：国土交通省 観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」2012年3月  
社団法人日本観光振興協会「観光の実態と志向(第30回)」2012年3月  
茨城県「茨城の観光レクリエーション現況(平成25年観光客動態調査報告)」

3) 茨城県のパラメータ調査の観光地点15地点は以下の通り

水戸市(偕楽園)、日立市(伊師浜国民休養地)、土浦市(霞ヶ浦総合公園)、石岡市(茨城県フラワーパーク)、下妻市(小貝川ふれあい公園)、北茨城市(六角堂周辺)、笠間市(笠間稲荷神社)、つくば市(筑波山)、ひたちなか市(国営ひたち海浜公園)、鹿島市(鹿島神社)、潮来市(前川あやめ園)、坂東市(茨城県自然博物館)、茨城町(ポケットファームどきどき)、大洗町(アクアワールド大洗)、大子町(袋田の滝)

4) 土浦陸運局のホームページでは土浦ナンバーの管轄地域は土浦市、石岡市、かすみがうら市、龍ヶ崎市、牛久市、取手市、稲敷郡 北

相馬郡 つくばナンバーはつくば市、つくばみらい市、古河市、筑西市、下妻市、常総市、坂東市、結城市、守谷市、桜川市、結城郡、猿島郡が管轄地域となっている。

eurostat は旅行者がどこに宿泊しているのかも調査している。この調査では国内旅行と国外旅行に分けて調査している。

5) 大分県観光調査統計 (平成24年) によれば都道府県別宿泊者数は下表のとおりである。

都道府県名	宿泊者数 (人)	割合%
大分県内	782,548	20.2
福岡県	1,041,683	26.9
その他九州・沖縄	582,574	15
中国・四国	358,335	9.2
近畿	340,584	8.8
中部	167,635	4.3
関東	547,782	14.1

#### 参考資料・データ

- ・日本経済新聞 (夕刊) 2014年 7月 3日
- ・eurostat Tourism statistics
- ・日本観光振興協会「観光と実態と志向 (30回)」2012年
- ・国土交通省 観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」2012年 3月
- ・茨城県商工労働部観光物産課「茨城の観光レクリエーション現況 (平成25年度観光客動態調査報告)」
- ・つくば市「つくば市観光基本計画」2012年 6月
- ・大分県観光調査統計